

山形県図書館協議会委員からの意見聴取の概要 (令和3年11月9日～11月19日に実施)

1 全般

- ① 取組み方策について、全般的に網羅されているが、新しい県立図書館の特徴や強みを打ち出せると良い。

2 ときめく図書館

- ① 賑わいづくりについて、小規模なイベントでもたくさん開催し、継続していくことが大事
- ② 大学コンソーシアムやまがた「ゆうキャンパス・ステーション」や男女共同参画センター「チェリア」など遊学館内の団体や近隣の洗心庵、県立博物館教育資料館との連携は重要
- ③ カフェレストラン「イルブル」と、料理やパン等で連携していることは良い。新たな来館者を掴むうえでも、互いに協力していくことが大事
- ④ 多くの子どもたちから図書館を利用してもらいたい。県立図書館の子どもエリアは1階奥だが、エントランスにも子どもを引き付けたり、ワクワクさせたりする工夫があると良い。
- ⑤ 体が不自由な方やお年寄りに対するサービスについて、学校ではインクルーシブ教育を推進しており、図書館でも取組みの充実が必要

3 たよれる図書館

- ① 学校によっては、児童・生徒の研究発表の資料等を冊子にまとめたりしているので、そのような資料の寄贈を受け、保存しておく取組みも大事
- ② 選書は市町村図書館との役割分担が必要。ベストセラー本や人気の小説などは市町村図書館が充実しており、同じ本を揃える必要はない。
- ③ 図書館職員の研修は実施しているようだが、市町村図書館との人的ネットワークを更に強化できないか。司書等が市町村図書館や県立学校図書館に出向き、現場の状況に触れるのは勉強になるし、日常業務に好影響を与える。

4 つながり・ひろがる図書館

- ① イベントや研修で、ZOOMなどウェブ会議システムを活用している取組みは良い。アクティブラーニンググループは、探究学習での活用を進めて欲しい。
- ② 講座やイベントについて、オンラインの活用に更に力を入れると良い。県立図書館からの講座配信や他の図書館での講座等を県立図書館で視聴できる形だと図書館間の連携も強まる。
- ③ 情報発信について、スマホ向けのホームページは必須である。ホームページは、どのページが人気か、どのようなキーワードで入ってくるか等を把握しておくことも重要
- ④ ホームページも子どもが利用したくなるようなデザインになると良い。
- ⑤ 市町村図書館に出向き、利用者カードの作成や利用案内を行う新たな取組みは良い。身分証明書のコピーを郵送等でやり取りするのはハードルが高い。
- ⑥ アーカイブについて、国立国会図書館のジャパンサーチを、どのように活かし連携していくか。他の図書館の取組み事例も踏まえ実践して欲しい。
- ⑦ 一般向けに、オンラインデータベースや国会図書館のオンラインサービスの使い方講座的なものを実施してはどうか。大学生でもスマホで調べ学習しているが、グーグル等の検索に頼っており、しっかりした情報を得ているか疑問に思うことがある。国会図書館の資料などしっかり裏付けのある資料の使い方が学べると良い。
- ⑧ 電子書籍について。県立図書館がモデル的に実施できると良い。市町村図書館は収蔵キャパシティが狭く、感染症等も考えると電子書籍のメリットはあると考えている。
- ⑨ 電子書籍について。全分野を網羅するより、特定分野に的を絞ったらどうか。例えば、なかなか館内では手に取りにくいLGBTの分野など。
- ⑩ 外部の力はどんどん入れるべき。国際ドキュメンタリー映画祭などイベントとの連携も進めた方が良い。
- ⑪ 図書館でのイベントや企画展示の開催について、利用者等からアンケートを取り、そのアイデアを実践したらどうか。投票箱のようなものを館内に設置するとか、SNSで呼びかけてみるなど。